

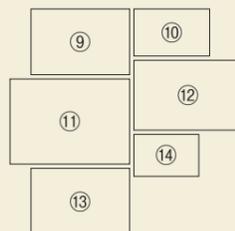


ごあいさつ

奈良文化財研究所。ご存じでしょうか。キトラ・高松塚古墳の保存問題や飛鳥・奈良の宮殿・寺院の発掘トピックスなどで、時折新聞紙上に載ったりします。しかし、その実態は、ほとんどの方がご存じないでしょう。そこで、大胆にも、研究の一端を紹介し、私たちが担う文化財保存の最前線をご理解いただくという企画をたててみました。

そもそも私たちの研究所は、文化財を実物に即して総合的・学際的に研究する国立の組織として1952(昭和27)年に誕生しました。調査研究の柱である平城宮跡や飛鳥藤原宮跡の発掘は、多分野の専門家が現場で一緒に協力して調査をおこなう世界的にもきわめてめずらしい学際的な体制です。木簡の発見と研究は古代の解明に新たな光を当て、遺跡保存と整備や復原手法の開発は全国の遺跡整備に大きな役割を果たしています。平城遷都1300年の今年、文化庁によって完成した第1次大極殿復原建物も、こうした成果の1つです。建造物・庭園・文献史料の調査研究と、遺跡遺物の保存科学技術・年輪年代法・遺跡探査法などの新技術の開発にも努め、最近では、これらの成果をアジアを中心とした国際的な文化財保存のために役立てるよう強く要請されています。私たちの地道な研究成果は朝日新聞奈良版に「古代はいま」と題して連載してきましたが、今講演を通し、あらためて研究所へのご理解を賜り、文化財保存の大切さに思いをはせていただければ幸いです。

奈良文化財研究所長 たなべ いくお 田辺 征夫

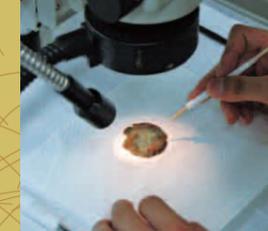


- ⑨ 大極殿
- ⑩ 大極殿院より出土した木桶の保存処理
- ⑪ 第一次大極殿院朝庭の調査
- ⑫ 天部形立像の年輪年代調査
- ⑬ 保存施設1階部分撤去後の高松塚古墳
- ⑭ 歴史研究室

奈良文化財研究所 特別講演会(東京会場)

古代はいま 奈文研 最前線

主催：独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
後援：文化庁、朝日新聞社、社団法人平城遷都1300年記念事業協会



2010年9月25日(土)
有楽町朝日ホール
(東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11F)

- 10:20 ~ 10:30 **主催者挨拶**
田辺 征夫 奈良文化財研究所長
- 10:35 ~ 11:15 **くれないはうつろうものぞ**
深澤 芳樹 奈良文化財研究所都城発掘調査部長
- 11:20 ~ 12:00 **銅鐸 花器として生きる**
難波 洋三 奈良文化財研究所企画調整部長
- 12:50 ~ 13:30 **古代人の肉食の忌避という虚構**
松井 章 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
- 13:35 ~ 14:15 **日本庭園のはじまり**
小野 健吉 奈良文化財研究所文化遺産部長
- 14:30 ~ 15:10 **古代遷都の真実
飛鳥宮・藤原京・平城京の謎を解き明かす**
井上 和人 奈良文化財研究所副所長
- 15:15 ~ 15:55 **特別講演
古代史研究と奈良文化財研究所**
佐藤 信 東京大学教授
- 15:55 ~ 16:00 **閉会挨拶**

シンポジウム事務局(株式会社クバプロ内) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F
TEL: 03-3238-1689 FAX: 03-3238-1837 E-MAIL: symposium@kuba.jp

<http://www.kuba.co.jp/nabunken0925/>

わたしたちは奈良文化財研究所を応援しています 株式会社タダノ・飛鳥建設株式会社



ふかざわ よしき
深澤 芳樹

奈良文化財研究所都城発掘調査部長

1952年生まれ 山梨県
京都大学修士課程修了（博士課程中退）

日本考古学、特に弥生社会について研究中

講演会では、藤原宮朱雀門の近くで出土した木簡から話を始め、大伴家持の万葉歌に及ぶ。是非とも古代の製法で染色した布を見ていただきながら、お聞きいただきたい。



なんば ようぞう
難波 洋三

奈良文化財研究所企画調整部長

1955年生まれ 兵庫県姫路市
1986年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程（考古学専攻）研究指導認定退学
京都大学文学部助手

1988年 京都国立博物館学芸課考古室研究員

2008年 奈良文化財研究所都城発掘調査部考古第一研究室長

2010年 現職

- ・ 銅鐸を中心とした弥生時代の青銅器の研究
- ・ 近世・近代の土器の生産と流通の研究
- ・ パキスタン・ガンダーラ地方の仏教時代の土器の研究

弥生時代の青銅製祭器のうち、銅鐸には、出土後に花生けなどに転用されたものが40箇以上もある。その文化史的背景について話してみたい。



まつい あきら
松井 章

奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長

1952年大阪府生まれ、58歳。
東北大学大学院文学研究科博士課程中退その間、米国ネブラスカ大、デンマーク国オールフス大学などで動物考古学を学び、発掘に参加する。

1982年から奈良国立文化財研究所（当時）勤務。

1994年から京都大学大学院人間・環境学研究科客員助教授（現：客員教授）を併任。2009年から同研究所埋蔵文化財センター長。

- ・ 動物考古学、環境考古学。
- ・ 遺跡に残る動植物性遺物から、当時の環境や食料を調べる。

奈良時代は、鎮護国家思想から殺生肉食を忌避したと考えられてきたが、遺跡から出土する牛馬をはじめとする動物骨は、ほとんどが解体され食用になったことが明らかである。動物に関する文字の記録と実際の発掘で確かめることのできる事実との齟齬を検討し、その理由を考えてみたい。



おの けんきち
小野 健吉

奈良文化財研究所文化遺産部長（兼・京都大学大学院人間・環境学研究科客員教授）

1955年 和歌山県生まれ。

1978年 京都大学農学部卒業。博士（農学）。

1987年 奈良国立文化財研究所入所。5年間の文化庁勤務を経て、2009年4月から現職。

著書に『岩波日本庭園辞典』『日本庭園一空間の美の歴史』（岩波新書）など。

- ・ 庭園史（日本を中心とした東アジアの庭園の歴史と文化）
- ・ 遺跡整備（遺跡を確実に保存し現代の社会に活かすための理念と手法）

入所当初から平城宮跡の整備に関わってきました。当時と比べると、朱雀門、東院庭園、そして大極殿の復原が成り、平城宮跡の景観は一変しました。とはいえ、平城宮跡の価値の本質をなすのは1300年の時を経た地下の遺構・遺物とそれを包み込む広大な空間であることに変わりはありません。訪れる人々が復原建物などを通じて、平城宮跡の本当の魅力を感じ取っていただければと思います。



いのうえ かずと
井上 和人

奈良文化財研究所副所長

1952年 大分県に生まれる。

東京大学文学部卒業 文学博士

1976年 奈良国立文化財研究所文部技官

1991年～1996年 文化庁文化財調査官

歴史考古学（東アジア世界の古代都城の研究）

遷都1300年を迎えた平城京をはじめとする日本古代都城の歴史的意味を、この半世紀に及ぶ発掘調査研究の成果をふまえて再考した結果、これまで知られていなかった新たな理解に到達するに至った。飛鳥から藤原京、平城京に至る生々しい都城の歴史の軌跡をお伝えしたい。



さとう まこと
佐藤 信

東京大学大学院人文社会系研究科教授

1952年 東京都に生まれる

1978年 東京大学大学院修了 博士（文学）

1979年 奈良文化財研究所研究員

1985年 文化庁文化財保護部記念物課文化財調査官

1989年 聖心女子大学助教授

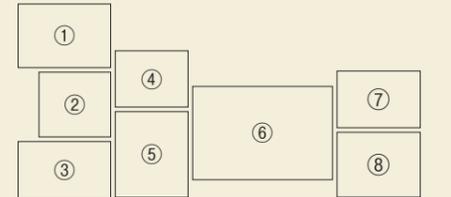
1992年 東京大学文学部

日本古代史

日本古代史の研究は、発掘調査による出土文字資料の増加などに伴い、飛躍的に進展しつつある。その中で重要な役割を担っているのが奈良文化財研究所である。奈文研は古代史研究にとどまらず、文化財、文化遺産全般について活発な調査・研究活動を展開しており、多くの成果を積み重ねている。その成果と、さらに今後果してほしい課題について、日頃の私の思いを述べてみたい。

プロフィール

- ・ 氏名
- ・ 所属
- ・ 略歴
- ・ 現在の専門分野
- ・ コメント



- ① GPR（地中レーダー）の探査風景
- ② キトラ古墳盗掘孔
- ③ 遺跡整備研究室
- ④ 環境考古学の現地講義
- ⑤ 甘樫丘東麓遺跡
- ⑥ 甘樫丘東麓遺跡
- ⑦ 興福寺南大門の調査
- ⑧ 西トップ寺院の遺跡発掘調査

